

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

| | |
|--------------|---|
| 研究課題名 | 経カテーテル的大血管ステントグラフト手術において、レミゾラムを用いた全身麻酔管理が血行動態に及ぼす影響に関する研究 |
| 研究責任者 | 聖隷浜松病院麻酔科 奥井悠介 |
| 研究実施体制 | 研究責任施設 聖隷浜松病院麻酔科 |
| 研究期間 | 臨床研究審査委員会承認日 ~ 2022年11月30日 |
| 対象者 | 2020年3月から2021年10月にかけて、当院で大動脈ステントグラフト手術を受けられた患者さま。 |
| 研究の意義・目的 | 心大血管治療の麻酔管理において血行動態の安定化は特に重要である。近年発売された全身麻酔薬であるレミゾラムは、心血管機能の抑制作用が比較的軽微とされており、全身麻酔管理中の血行動態維持に有用な可能性がある。とくにこれらの手術対象となる症例では心大血管病を併存している場合が多く、血行動態維持に有用であればその意義は大きいと考える。 |
| 研究の方法 | 【研究デザイン】 後ろ向き観察研究 【方法】 対象となる患者さんの診療録や麻酔記録より、下記の診療情報について収集し、統計を用いて解析し、検討・考察を行う。 収集予定の情報:年齢、性別、身長、体重、既往歴、ASA-PS、全身麻酔中のバイタルサイン(血圧、心拍数など)、輸液量、輸血の有無、血管作動薬の使用状況と投与量など。 【評価・解析方法】 レミゾラムを用いた症例群とデスフルランを用いた症例群で全身麻酔中の血圧や心血管作動薬使用の有無や投与量について統計的手法を用いて比較検討する。 |
| 個人情報の取扱い | 本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。 |
| 個人情報開示に係る手続き | 個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。 |
| 資料の閲覧について | ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。 |
| 問い合わせ窓口 | 聖隷浜松病院 麻酔科 (氏名)奥井悠介 TEL:053-474-2222(代表) 9:00~17:00 平日 |